

どうなる？19春闘

**電機前年割れ
トヨタ非公表
日産満額回答**

主要企業の2019年春闘回答

企業名	ベースアップ	(前年実績)
日立製作所	※1000円	(1500円)
パナソニック	1000円	(1500円)
三菱電機	※1000円	(1500円)
富士通	※1000円	(1500円)
東芝	※1000円	(1500円)
日立グループ	※1000円	(1500円)
トヨタ自動車	非公表	(1300円超だが 賃上げは前年割れ 金額は非公表)
日産自動車	3000円	(3000円)
ダイハツ	※1400円	(1700円)

2019年春闘は13日、主要企業の集中回答日を迎えた。米中貿易摩擦の長期化などによる世界的な景気減速懸念が足かせとなり、基本給を底上げするベースアップ(ベア)は前回18年の水準を割り込む回答が相次いだ。自動車や電機のベア実施は6年連続だが、政府が賃上げの旗を振る「官製春闘」からの脱却も背景に各社は慎重な判断に傾いた。トヨタの回答は定期昇給やベアに相当する賃金改善分を合わせ、全組合員1人平均で1万700円。ベアの水準は前年に続き公表しなかった。トヨタの労働組合はベアの具体額を明示せず、1万2千円の賃上げを求めている。カルロス・ゴーン前会長の事件で揺れる日産自動車はベアが満額回答で、前年と同額の月額3千円とした。従業員の士気を高める五いとみられる。一方、ホンダは3000円下回る1400円で事実上決着。日立製作所やパナソニックなど電機大手は500円減の千円で妥結した。

春闘トヨタ、賃上げ1000円減

ベア前年割れ相次ぐ

東奥日報
3月13日

製作所やパナソニックなど電機大手は500円減の千円で妥結した。自動車や電機の手では19年3月期の業績予想を下方修正したり、早期退職など合理化を進めたりする動きが出ている。自動車の労組は統一闘争を見送りマツダもベア水準を示さなかった。日産など6社は前年と同じベア3千円を求めた。電機各社は要求額と回答額の足並みをそろえる統一交渉を例年通り継続。ベア3千円の要求に対し経営側は賃上げに厳しい姿勢を続けたが、「生活に直結する賃金が最も大事だ」とベアにこだわる労組側に譲歩した。

年間一時金(ボーナス)は、トヨタが夏のボーナスを組合員1人平均120万円とし、冬については継続協議にすると回答。労組側要求はトヨタが6・7カ月分、日産が5・7カ月分、ホンダが6・3カ月分など。電機では日立が6・4カ月、三菱電機が6・43カ月、シャープが4・7カ月だった。

13日、19春闘の集中回答日を迎えた。主要企業は労組に回答を示し、基本給を底上げするベースアップは2018年の水準を割り込む回答が相次いだ。電機は6年連続のベア実施となったが、昨年を500円減の1000円で妥結。これまで春闘のけん引役となってきたトヨタは、定期昇給や賃金改善分を合わせ平均10,700円で、昨年を1000円下回った。また昨年からベアは非公表とし今年も具体額を示さなかった。

申15号「2019年度賃金引上げ等に関する申し入れ」の回答指定日は3月15日です!

満額回答に向けて職場からたたかいを創り出そう!